

別紙 2

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】（中学校用）

都道府県名

岩手県

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	野田村立野田中学校					
学 年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	1	7	15
生徒数	69	72	73	1	215	

研究の概要

1. 研究主題

自ら学ぶ意欲を育てる指導はどうあればよいか
～基礎・基本の定着を図る指導法の工夫を通して～

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

* 実施学年及び教科を選択した理由

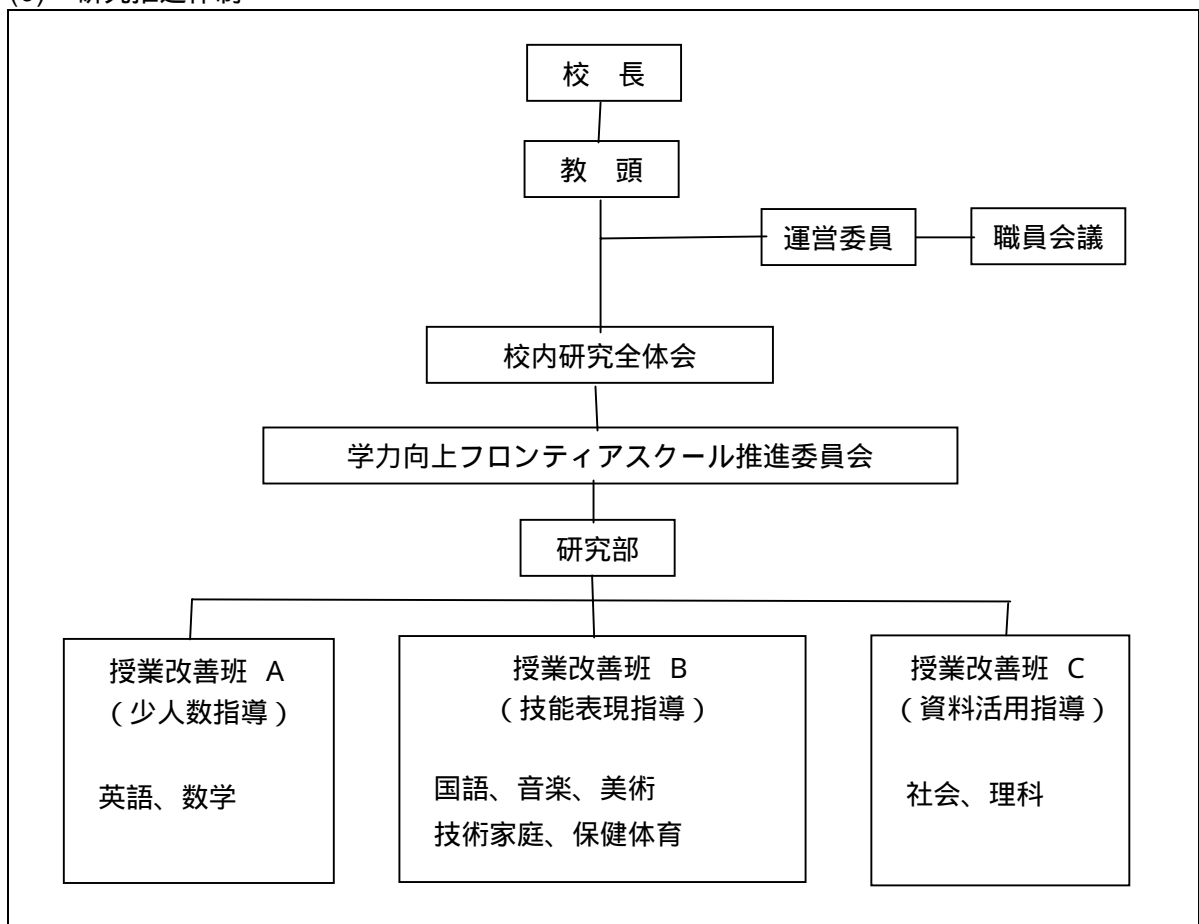
- ・ 第1学年・英語
新しく学習する教科・学年なので、基礎・基本を定着させるため。
- ・ 第3学年・数学
学年が進み、生徒の学力定着状況に差が出てくる教科のため。

(2) 年次ごとの計画

平成 15 年 度	<p>テーマ 「基礎・基本の定着、遅れがちな生徒や意欲的に取り組めない生徒への指導」</p> <p>研究の見通し 英語科・数学科において、基礎・基本の定着を図る指導法の工夫・改善を行うことにより学力向上を目指す。</p>
	<p>研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 成就感を味わえる授業改善 英語科・数学科における基礎・基本の定着を目指し、少人数指導による習熟度別学習やTT指導など授業形態の工夫を図る。 ・ 単元テストの実施 各単元の学習終了後に単元テストを行い、定着状況を見る。不十分な結果の場合は補充指導を行う。 ・ 学習と生活の両立を確立する指導の工夫 授業で学んだことを家庭学習で復習する習慣を身に付け、意欲的に学ぶ生徒として育つよう、学習の仕方を学級活動を通して継続的に行う。 ・ 朝読書や学習コンクールの取組 朝読書の取組により、落ち着いた雰囲気や一日を始める習慣を身に付けさせる。また全校一斉の学力定着コンクールを実施し、平均点により表彰を行うなど、全校生徒の学習意欲を高める取組を展開する。 ・ 広報活動の充実 学校での様子を随時各家庭に伝え、協力要請や啓発活動を行い、意識向上を図る。

平成16年度	<p>テーマ 「個に応じた指導の工夫・改善」</p> <p>研究の見通し 英語科・数学科において、個に応じた少人数指導の工夫・改善を行うことにより学力向上を目指す。</p> <p>研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習形態の工夫 英語、数学を中心にして、少人数指導を念頭に置いた学習内容の理解と定着を高めるための指導形態の在り方を探る。 ・ 指導方法の改善 生徒の学習意欲を引き出し継続させるための指導の在り方を探る。 ・ 学習環境の整備 生徒の学習意欲を喚起し継続させるための方法、指導の在り方について、生徒指導的な面も含めて検討する。 ・ 家庭や地域との連携 家庭学習の在り方や放課後・休日の過ごし方、地域社会での生活について、その望ましい姿を保護者のみならず地域社会の様々な人々と共に考え、よりよい方向性を探る。
--------	--

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究の成果及び今後の課題

1 研究の成果

CRT検査結果

現第3学年		国 語	数 学	英 語
H13	本 校	64.0	60.4	67.3
	全 国	65.8	55.7	66.8
	対全国比	97.3%	108.4%	100.7%
H14	本 校	74.5	49.9	59.9
	全 国	74.7	57.7	62.2
	対全国比	99.7%	86.5%	96.3%
H15	本 校	64.3	58.7	58.7
	全 国	68.2	66.5	62.0
	対全国比	94.3%	88.3%	94.7%

現第2学年		国 語	数 学	英 語
H14	本 校	67.7	48.8	66.9
	全 国	66.9	58.1	66.3
	対全国比	101.2%	84.0%	100.9%
H15	本 校	79.2	48.3	61.1
	全 国	74.7	57.7	62.2
	対全国比	106.0%	83.7%	98.2%

現第1学年		国 語	数 学	英 語
H15	本 校	65.5	52.2	62.5
	全 国	66.9	58.1	66.3
	対全国比	97.9%	89.8%	94.3%

成果

- ・ 著しく全国との格差が生じている教科はないが、各学年とも学年が進むにつれて、英語、数学の得点率が低くなっているという生徒の実態が分かった。
- ・ 現第3学年の数学は、コース別TT指導を継続したことにより、2年次の得点率ポイントをわずかながら上回った。

課題

- ・ 数学については全学年とも60%に達しておらず、基礎学力の定着が不十分であり、来年度も継続して研究を進める。
- ・ 上記CRTの結果から、全学年とも英語と数学については学習形態の工夫を図り確実な定着を目指す。

2 今後の課題

生徒の実態を踏まえた授業改善

学年が進むにつれて学力の格差が生じる数学や中学校で初めて学ぶ英語への適切な土台作りに向けて、少人数指導を充実させ、基礎・基本の定着に取り組む。

学習意欲を高める取組の充実

既存の取組状況を見直し、より充実させるよう努める。

家庭や地域との連携

学校での取組を広報活動を通して知らせ、一体となって事業を推進していく。

学力把握のための学校としての取組

学習定着度状況調査 10月実施

学習内容の定着を捉えるため、全県で、85%の正答率を目標に5教科で行われる調査の、県、地区、自校の結果を基に分析し、指導に役立てる。

教研式CRT検査 12月実施

学習状況や学習意欲を捉えるために行う。全国達成度との比較により、定着が不十分な観点を見直し、回復措置を講じ、学力向上に役立てる。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

研究会

授業研究会

数学 7月実施 第3学年B組 「コース別TT指導の研究」

英語 11月実施 第1学年B組 「コース別TT指導の研究」

社会 12月実施 第1学年A組 「小中一貫教育指導の研究」

説明会

地区懇談会 7月実施 「保護者への事業推進の説明」

先進校視察 10月 大船渡市立大船渡中学校学校公開

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校

【学校規模】 3学級以下 4～6学級
7～9学級 10～12学級
13～15学級 16学級以上

【指導体制】 少人数指導 TTによる指導
その他

【研究教科】 国語 社会 数学 理科
外国語 音楽 美術 技術・家庭
保健体育 その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無